

日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだいい



ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/index-j.html>

第 3 1 号
(2007年4月25日)

発行所：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院人文社会系研究科山口勸研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
Tel: 03-5841-3870 FAX: 03-3815-6673
e-mail: ijesp.ed@L.u-tokyo.ac.jp

発行人：山口 勸 編集担当：山口裕幸
編集幹事：森尾博昭

〈 目 次 〉

- § 学会役員の改選・交替について 1
♪ 新会長の挨拶：吉田俊和
♪ 退任にあたって：山口勸
♪ 役員改選選挙の経過及び結果報告：安永悟
§ 学会大会の開催について 3
♪ 第54回大会への誘い：吉田俊和
§ アジア社会心理学会について 4
♪ アジア社会心理学会2007年大会へのご案内：結城雅樹
§ 事務局からのお願い／広報担当からのお知らせ／諸連絡先 5

★★ 学会役員の改選・交替について ★★

会長あいさつ

吉田俊和 (名古屋大学)

この4月より2年間、会長を務めさせていただくことになりました。日本グループ・ダイナミックス学会は、数ある心理学関連学会の中でも、伝統ある学会の一つです。ただ、最近では会員数が伸び悩んでおり、大会での発表数も横這い状態が続いています。いうまでもなく、学会の生命線は、大会での活発な研究発表と機関誌に良質な研究論文が掲載されることです。幸い、『実験社会心理学研究』への投稿論文数は上昇傾向に転じており、2006年(1月-12月)は28本を数えました。特集論文企画も3つほどあり、今後とも順調に発刊されると思います。こうした活動を支えるため、前常任理事会の決定により、2007年4月からは会長と編集委員長が分離され、新常任理事の浦先生が編集委員長に就任されます。また、大会発表を活発にするため、第53回大会(於 武蔵野大学)からは、若手研究者を対象に優秀学会発表賞が創設され、発表部門ごとに1つの研究発表が表彰されます。該当者には、投稿論文での優先権が付与されます。このような取り組みは、本学会を活性化させるために、山口前会長を始めとする前理事の方々の努力によるものです。

会員のみなさん、特に若手会員のみなさん、学会を面白くするのも、つまらなくするのも、一人一人の心がけ次第です。ぜひ、大会での研究発表、機関誌への投稿を積極的にお願ひしたいと思います。現時点では、新会長として何か特別の方針を持っているわけではなく、前常任理事会の路線を踏襲したいと考えています。新しい常任理事会体制が落ち着き、新機軸が打ち出せるようでしたら、新たな提案をさせていただきたいと思いますので、2年間よろしくお願ひいたします。

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

退任にあたって

山口 勲（東京大学）

この二年間、さまざまなことがありましたが、とにかくにもここまで十分とはいえないまでも職務を果たしてこられたのは、常任理事、理事、そして多くの一般会員の方々にご協力をいただいたおかげです。会長としても実験社会心理学研究の編集長としても、二年前に自分が考えていたことの半分も成し遂げることはできませんでしたが、退任にあたり、皆様のご助力に感謝申し上げますとともに、この二年間を振り返って今後の学会の進むべき方向について考えてみたいと思います。

私は会長として、いくつかの重要な決断をさせていただきました。恐らく、その中でもっとも重要なことは、会長と編集長を切り離したことだと思います。このことは他の学会では当たり前のことですが、本学会では歴史的な経緯もあり、会長と編集長の兼務が続いていました。いざ自分が兼務してみると、その大変さがよく分かりました。実際、多くの方々に私のミスでご迷惑をおかけしてしまったことを、この場を借りてお詫び申し上げます。言い訳になってしまうかもしれませんが、これだけ大学が忙しくなり、また学会のおかれた状況も厳しくなると、二つの職を兼務することは、今後どなたが会長になっても非常に難しいことだと思います。編集長の負担を軽くするために、ウエブ入稿まで進みたかったのですが、これは次期編集長にお願いしなくてはならなくなりました。

実験社会心理学研究の刊行とならんで、学会の果たすもう一つの重要な役割は毎年大会の開催だと思います。ここ何年か学会主催校の決定にたいへん苦勞しており、そろそろ主催校制度から学会主催に移行すべき時期に来ていると思います。これも、今後の課題として残してしまうことになりました。ただ、若手の研究発表を奨励するために、小さなステップですが、発表賞を創設しました。これが若い研究者の方の積極的な学会参加に結びつくことを願っています。

最後に、アジア社会心理学会との提携については、安定してきた、という印象をもっています。共同出版しているAJSPは順調に発展し、今年から四号体制が始まりました。ぜひ、多くの会員の論文がこの雑誌に掲載され、国際化の第一歩として役立ってほしいと思います。

このように書いてきますと、どうも私が苦勞してきたことが、これからの学会の課題でもあるようです。学会運営は、選挙で選ばれたとはいえ、ほとんどボランティアで行われています。会員の皆様のご協力なくしては円滑な運営はありえません。次期執行部にも、さまざまな課題を引き継ぐことになりますので、会員の皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。そして、次期執行部の担当するこれからの二年間で、本学会がさらなる発展を遂げることを期待しております。

2007-2008年度役員選挙の経過と結果

選挙管理委員会委員長 安永 悟（久留米大学）

会則細則第6章「役員選出規程」に従って、2007-2008年度の新役員選挙を行ったので、その経過と結果を以下に報告いたします。

実施期間	実施事項
2006年10月1日 ～10月31日	全会員を対象に、選挙台帳の確認を郵送により実施。
11月20日 ～12月8日	投票権のある会員782名を対象に、会長、理事、及び監事の選挙を郵送により実施。
12月15日	九州大学にて開票。投票総数184、投票率23.53%、有効投票数179、無効5。地区別理事で当選された方1名が辞退されたので、次点者を繰り上げた。
12月25日 ～1月5日	選出された理事を対象に、会長指名理事2名の信任投票を電子メールで実施。いずれも信任された。
2007年1月10日～24日	新選出理事の互選による常任理事選挙を郵送で実施。
1月26日	九州大学にて常任理事選挙の開票を行い、4名の常任理事が選出された。
1月31日 ～2月9日	選出理事を対象に、会長指名常任理事2名の信任投票を電子メールで実施。いずれも信任された。

これら一連の選挙の結果、以下の表に示すように、吉田俊和新会長を始め、6名の常任理事、21名の理事、2名の監事を含む新役員が確定しました。これらの方々に、以後2年間にわたり本学会の運営を委ねることになります。どうぞよろしくお願い申し上げます。最後に、約5ヶ月にわたるこの選挙の期間中、ご協力いただいた会員の皆様方に、選挙管理会を代表して感謝申し上げます。

新 役 員 一 覧 (敬称略)

(常任理事は、全国区理事と地方区理事から選出されているので二重にお名前が記載されています。*印は40歳未満カテゴリーから選出された方です)

会 長 吉田俊和

常任 理事 浦光博、唐沢かおり、斎藤和志、西田公昭、村本由紀子、矢守克也

全国区理事 浦光博、小川一美*、唐沢かおり、斎藤和志、辻本昌弘*、東村知子*、松井豊、諸井克英、山口勸、矢守克也、結城雅樹*

地区別理事 (北海道) 今川民雄、(東北) 今城周造、(関東) 村本由紀子、下斗米淳、(中部) 西田公昭、(近畿) 永田素彦、廣岡秀一、(中四国) 青野篤子、(九州) ハッ塚一郎、(沖縄) 高良美樹

監 査 角山剛、杉万俊夫

★★ 学会大会の開催について ★★

第54回大会への誘い

大会準備委員長 吉田俊和 (名古屋大学)

日本グループ・ダイナミックス学会第54回大会を、6月16日～17日に名古屋大学で開催いたします。大会前日の15日(金)午後5時から、常任理事会企画としてワークショップ『カテゴリーカル・データの数量化の方法とその応用』も開催されます。講師は、中京大学現代社会学部の村上 隆先生です。先生は、昨年9月まで名古屋大学教育発達科学研究科に在籍され、「わかりやすい心理統計」を教えてくださいと、大学院生にも絶大な

人気を誇ってみえました。大会前日になりますが、参加されれば必ず満足されると思いますので、絶対にお勧めいたします。研究発表件数は110件で、内訳は、シンポジウム1件、ワークショップ4件、小講演3件、ポスター発表47件、ショート・スピーチ37件、ロング・スピーチ8件、イングリッシュ・セッション10件です。優秀学会発表賞へのエントリーは49件あり、若手研究者の意欲も感じられます。また、発表原稿の電子登録元年でしたが、他学会でのシステムと異なっていたため、一部に混乱を生じさせたことは、ご容赦願います。

準備委員会としましては、梅雨という季節を考え、地下鉄駅構内から直ぐの場所に会場を確保し、2日目お昼の軽食も準備し、大学内の保育園に託児所を確保する等、万全のサービス体制を整えています。懇親会では、「名古屋コーチン」や「ひつまぶし」は価格との釣り合いでお出しできませんが、「きしめん」の提供は交渉中です。1号通信にも書かせていただきましたが、「参加して、よかった」をモットーに準備いたしますので、多数の会員のご参加を心よりお待ち申し上げます。

[選考の趣旨と対象者]

本年の大会から、学会発表の活性化を図るために、当年の大会における発表の中から優れたものを選考し、発表部門ごとに「優秀学会発表賞」を授与することになりました。本賞の対象者は、大学院在学中の者、または大学院終了後（退学後）5年以内の者です。

★★ アジア社会心理学会について ★★

アジア社会心理学会2007年大会へのご案内

アジア社会心理学会 会計担当
結城 雅樹（北海道大学）

来る2007年7月25日から28日にかけて、マレーシアのコタキナバルにて、アジア社会心理学会第8回大会が開催されます。発表申込はすでに締め切られましたが、日本グループダイナミクス学会会員の皆様を含め、700件という驚異的な数のアブストラクトが提出されました。大会期間中、7件の基調講演、23件のシンポジウム、210件の口頭発表と222件のポスター発表が行われる予定です。東アジア、および東南アジア諸国以外からも、オセアニア（34）、中東（27）、北米（20）、ヨーロッパ（20）、南アジア（14）、中南米（2）、アフリカ（1）、と世界各国からの参加申込があり、アジア地域における社会心理学研究に世界的な注目が集まってきていることを示しています。

会場 本大会はマレーシア・サバ州（ボルネオ島北部）の有名なりゾート地であるコタキナバル市で開催され、主会場はMagellan, Sutera Harbour Resortです。7月25日の夜には、Chancellor Hall, Universiti Malaysia Sabahにてオープニングセレモニーが開かれます。受付とカクテルパーティーに引き続き、色鮮やかなカルチュラルイベントをお楽しみ頂きます。

コタキナバルの紹介 コタキナバルKota Kinabaluは、世界で3番目に大きな島ボルネオ島の北部に位置するサバ州の州都です。東南アジア最高峰のキナバル山、熱帯雨林の動植物が暮らすジャングル、世界有数のダイブスポットなど数多くの魅力にあふれています。コタキナバルへは、成田と関西空港からそれぞれ直行便が就航しているほか、香港、台湾、マニラからのフライトも就航しています。

旅行のご予約はお早めに 7月は、サバ州観光のハイシーズンです。航空機やホテルの予約はどうぞお早めに。

大会の詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.ums.edu.my/seminars/aasp2007/>

美しい景色と太陽の下で、沢山の皆様と有意義な意見交換ができることを楽しみにしております。

★★ 事務局からのお願い ★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集

「実験社会心理学研究」には、グループ・ダイナミックスや社会心理学に関連する特集を掲載します。特集は、読みごたえのある論文3編程度で構成します。特集についての企画をお持ちの会員は、企画の趣旨、特集論文の概要等をまとめた企画書（A4版1-2枚程度）を、編集委員長に提出して下さい。企画の採択については、常任編集委員会で審議、決定します。特集論文の審査手順など詳細については、学会ホームページに掲載してあります。URLは、<http://www.groupdynamics.gr.jp/tokusyu.htm>です。ご参照ください。

なお、「実験社会心理学研究」は、特集の掲載によって、一般投稿論文の掲載に大幅な遅滞が生じないことを重視しています。企画を提出される方は、この点をお含みおき下さい。

◆実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

★★ 広報担当からのお知らせ ★★

◆JGDA_Flash：グルダイでは【日本グループダイナミックス学会・広報（速報）メールマガジン】（JGDA_Flash）を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員みなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約600名です。グルダイ会員みなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思います。登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、グルダイ広報メールマガジン運営担当マスターのアドレス

office@groupdynamics.gr.jp

までお願いいたします。また、新刊案内や研究会案内等のニュース記事も大歓迎いたします。同アドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、

<http://www.groupdynamics.gr.jp/cgi-bin/magbbs.cgi>

で閲覧可能です。

★★ グルダイ学会関係連絡先 ★★

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。2007年4月から役員交代によって、連絡先に変更がありますので、ご注意ください。

◆【事務支局】住所・所属変更、その他お問い合わせは、

中西印刷株式会社 学会部 （日本グループ・ダイナミックス学会担当：岡田）

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 e-mail: jgda@nacos.com

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見は、
「実験社会心理学研究」編集事務局

広島大学大学院総合科学研究科行動科学講座 浦研究室内

Tel/Fax: 082-424-6576 e-mail jjesped@hiroshima-u.ac.jp

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

- ◆ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報などは、
静岡県立大学看護学部 西田公昭研究室
〒422-8526 静岡市谷田52-1 Fax: 054-264-5099
E-mail: office@groupdynamics.gr.jpまでお送りください。
また、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

- ◆学会事務局
愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科 斎藤研究室
TEL: 0561-62-4111 (代表) / FAX: 0561-63-7734 (学科準備室)
E-mail: sec-general@groupdynamics.gr.jp

◎ (編集後記) 2年間の任期を終えて、担当を引き継ぐ最後の仕事が、この「ぐるだいニュース」31号の編集と発行になりました。頼りない広報担当常任理事でしたが、多くの会員の皆様と、山口勸会長や常任理事の皆様の協力をいただき、とりわけご苦勞をおかけした広報幹事の森尾博昭さん(東京大学)の献身的なご尽力のお陰で、なんとか任を全うすることができました。心より深くお礼申し上げます。2007年4月からは西田公昭常任理事が広報活動を担当されています。今後とも学会の広報活動に皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます(編集子)
